

夕刻の少女

児玉亮子

窓辺からカラスの群れが血に染まる不安を刻み鼓動が満ちる

駐車場ふと思い出すあの言葉睫毛の先へまたこぼれてく

狂うほど赤い夕日が拡散し白樺並木へ化粧をこぼす

朱焼けがまぶしくハンドル暖めるなぜか苦しい Mr. children
ミスターチルドレン

手を挙げる次なる処刑を決めるよう寨はとうに投げられている
さい

足軽のわたしはひらりまた回避虚ろな眼差し当事者ながめ

すれ違い曖昧会釈時のせい人は最後に「イット」と呼ばれる

涙とか頬紅だとか忘れ去り オートマトン automaton は過去おもいでつむぐ

偽りの笑顔と化粧ハイヒールすこしの涙で少女はできる

大きな瞳閉ざした心探してた殴られた時も綺麗な彼女